# 県内唯一、大量調理施設で実習

## 神奈川県立吉田島高校

## 「食堂」での販売・経営を目指す

## 学校で採れた作物活用

神奈川県立吉田島高校（岩崎秀太校長、生徒408人）は、最大10升（約15㌔）のご飯を調理できる大型炊飯器などを使用した「大量調理実習」に取り組んでいる。生徒が食材の仕入れやメニューの開発、調理、運営までを担う「学校食堂」で提供するためだ。取材した11月は文化祭で販売予定のタコライスを試作。同校の宮本千晶総括教諭は「大量調理実習ができる施設は県内唯一。生徒も教員も貴重な環境での取り組みに意欲を高めている」と話す。

同校では、県教委が進める県立高校改革の一環として、農業に関する学科で野菜や果物の生産方法を学ぶ「都市農業科」、食品の加工方法について学ぶ「食品加工科」などを設置している。平成31年度には、県立高校で初めて、調理師や栄養士、保育士といった地域に貢献する産業の人材育成を目指す、生活産業に関する学科「生活科学科」をスタートさせた。

大量調理器具「ティルティングパン」でタコライスの具材を炒める生徒たち

### 食文化や食品製造なども学習

生活科学科の「食健康コース」では、今年2月に完成したばかりの大量調理実習室を使用した実習に力を入れる。このコースでは調理実習の他に、食文化や食品製造などを学習内容とした。他にも保育について学ぶ「ヒューマンサービスコース」があり、2年生で選択する。

同学科の1年生は「生活産業基礎」「農業と環境」を通して、食に関する職業や野菜の栽培方法などを調理実習のための基礎知識として習得する。

大量調理を始めるに当たって、同学科の生徒が都市農業科の教員にインタビューを行い、食材の旬や生産物の活用方法について情報を集める。その内容をレシピの考案などに生かしているという。

### 衛生に関するルールを設定

また実習を進める上で、衛生面に関するルールを設定。例えば、「清潔感のある服装を着用すること」「爪を短く切っておくこと」などがある。宮本総括教諭は「調理して終わりではなく、食べる相手のことを考えることも大切」と、衛生面の重要性を話した。

取材当日に調理したタコライスは、11月の文化祭で販売するための試作。事前にGoogle Classroomでメニュー案を出し合い、決めたものだ。この日は80食分のタコライスを調理した。米を炊く間、1台で「炒める」「煮る」「揚げる」といった調理ができる「ティルティングパン」を使い、タマネギやひき肉をスパイスと共に炒め、実習室は香辛料の香りが立ち込めた。大量調理実習ではこれまでに、同校で採れた大根やサトイモ、米を使って50食分のおにぎりと豚汁などを作っている。

80食分のタコライスの盛り付けに黙々と取り組む様子

### 卒業後を見据えて

これらの実習のゴールは、学校食堂での販売。食堂は調理実習のスペースの一部を使って設置し、生徒が食材の仕入れから料理の販売・経営までを行う場にする。

調理だけでなく経営などを経験させるのは、卒業後、ホテルのレストランに就職したり飲食店を経営したりすることを想定した。今後、仕入れや原価計算の方法を授業内容に取り入れる計画だ。

### 教員も器具の使用方法学ぶ

宮本総括教諭はこの実習の課題として、大型調理器具の使用経験が少ない教員が多いことを指摘。同学科では家庭科の教員6人のうち、栄養士の資格を持つ教員は2人だった。

そこで、夏休みに調理師養成専門学校の教員や、調理器具の業者を招き、まずは教員が器具の使用方法を学び、生徒に指導できる体制を整えた。その一環として、教員がカレーを試作し、校内で販売。代金は神奈川県の収入として計上し、材料費などの予算に充てた。実際に体験することで、生徒たちにもその楽しさや難しさ、器具の使用に関わる危険性を伝えたいという思いもあった。

取り組みを通して、生徒たちの間でもコミュニケーションが増えているという。

宮本総括教諭は「大量調理は何十、何百の量を一度に作る。組織として、チームワークを大切にしていきたい」と話した。

吉田島高校＝☎0465・82・0151

---

## 授業づくり《32》

### 倫理

新しい試験の船出と新学習指導要領を見据えることの二つのミッションが課せられていた共通テスト。この分析の上で、これからの「倫理」の話をしようと思う。

まず、組み合わせを先取りしているように思えるほど、知識の定着を問う柔軟な出題が織り交ぜられている。定期試験の作問に活用したり、そこから逆算して授業展開を工夫したりすることが共通テスト対策として考えられるだろう。

れるテレビ番組が取り上げられ、AIと人間の関係を問うリード文などが出題された。初見であっても臆することなく向き合う姿勢のために、さまざまなことを想定し、授業の中で鍛えておく必要がある。アイヒマン裁判から50年後にアーレントムを考える授業づくりができるだろう。

リード文の内容面はどうだろうか。概念ごとに思想史が再構築された新課程下の「倫理」を展開するためには、フランス世紀前後のイギリス、19世紀フランスの思想で、それぞれ調べて発表する展開設定だった。これを高校修了認定の国家資格であるバカロレアの「哲学」の過去問も参考にできるだろう。

第二日程・第三問の場面設定が参考になるだろう。クラスを三つの班に分け、「幸福とは何か」をルネサンス期、18か。第三問の

---

## 魅力発信 わが校の実践〈75〉

## 愛知県立岡崎商業高校㊥

## 生徒が講師 小・中生にSTEMの魅力伝える

本校は「あいちSTEM教育推進事業」の一環として令和元年度と令和2年度、県教育委員会から事業実施校の指定を受けた。STEM教育とは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Mathematics（数学）の4分野に重点を置く教育で、県教育委員会が平成29年度から推進している。

「あいちSTEM教育魅力発信事業」では、プログラミング教育などに関する講座を、本校の生徒が講師となり小・中学生を対象に実施し、STEM4分野の魅力を伝えた。この生徒が講師となる「出前講座」は、高校生が作成した独自教材やタブレット端末を用いてロボットを動かし、ゲーム感覚でプログラミングを伝えることを目的として行った。令和元年7月に「おかざき

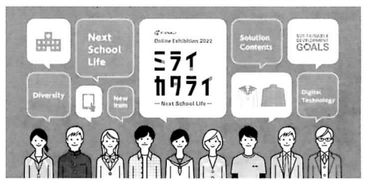
同年12月に「親子プログラミング教室」を実施し、生徒がファシリテーターとなりタブレット端末でロボットを操作するプログラムを伝えた。早い段階で定員となり、「保護者も一緒に楽しめる」と好評だった。この事業を契機に、出前講座は現在も継続して行っている。

「あいちSTEM教育力強化事業」は、STEM4分野に関する専門的な知識・技術を有する支援員により、STEM分野を強化するための教材開発を通して指導者を育成する事業である。本校では、システム開発業の新入社員として地元のパン屋のWebサイト作成に携わる業務で何が重要なのかを意識した教材を開発。顧客であるパン屋や上司との意思疎通の在り方を支援員から助言を受け、「コミュニケーションを意識したシステム

---


未来を語らう、オンライン展示会2022を開催

「ミライ カタライ～Next School Life～」




KANKO カンコー学生服

今、私たちができることを、語らうことで見つけ出す。

は、オンライン展示会2022「ミライ カタライ～Next School Life～」。今年度はWeb展示ならではの特性を活かしたいと考える5つの課題をテーマに、有識者や先生方が向けた一歩進んだ提案が、全国の学校関係者からリアルな展示が見られる「サテライト展示会」で出

### 「チーム学校」の一員として

スクールユニフォーム業界の先駆者として、常に新しい価値を創造し続ける菅公学生服。子どもや学校を取り巻くさまざまな社会課題を解決するスクールソリューションカンパニーとして、学校制服・体操服に代表される「ものづくり」と、未来を生きるために必要な力を育む「ひとづくり」にも積極的に関わっている。

そこには、これからの予測不可能な時代を生きる子どもたちのためには、地域や家庭、さまざまな有識者や企業が「チーム学校」の一員としてつながり、教育をサポートしていくことが重要という思いがある。

こうした中、2度目となるオンライン開催について同社は「今年も、実際に見て、触ってもらうことが難しい状況の中で、動画を使った見せ方にも工夫を取り入れて、より分かりやすく見てもらえるようにした」と話す。

軽量感があり、風を通しにくいKANKO PREMIUMの体操服

### 予測不可能な時代

パネルディスカッション

### 多様性を認め合う学

教育現場において課題となっている「LGBTQ」「SDGs」「探究」などをテーマに、有識者・学校関係者が語り合うパネルディスカッションを公開。たとえば「LGBTQのその先へこれからのダイバーシティ教育について考える」では、多様性に対する配慮を背景に、詰襟・セーラー服からブレザー化が進む中で、単に制服を変えるだけでなく、多様性を認め合う学校環境づくりに向けたヒントを提供している。「当事者が